

サッポロ 佐又

金の力エル・銀の力エル

胆振管内白老町の話

(森竹竹市遺稿 ウエベケルより)

私はクマの神を束ねる者。神の世界で、いつも仲間たちのまとめ役をしています。仲間たちは、ときどきクマの姿になって人間のところへ行きます。そこで、人間に肉や毛皮をわたし、代わりにイナウや酒やちそうなどを、たくさんもらって帰ってきます。人間のところから帰ってきた者があると、ほかの仲間を集めておみやげを分けあい、宴会を開くのが常でした。

ある時、宴会を開いているところで、仲間のクマがこのようなことを言っているのが聞こえました。

「私は、今回はウラシベツ村の長者のところへ行ってきた。ウラシベツ村の長者は聞いていた通りの立派な人間で、見事な儀式で私を祭ってくれた。ただ不思議だったのは、人間たちが集まっておどっている中に、赤いはげ頭の男が混じっていた。その男は飛びぬけておどりがうまくて、一際目立っているのだ。どこの人間だろうと思つてよく見ようと思つたのだが、おどりが終わるといつの間にかなくなつてしまった。ところが、おどりが始まるとまたいつのまにかあの男が加わっているのだ。そうかと思えば、どこから見事な声でユカラを語るのが聞こえてきた」



クマ神の間に流れる不思議なうわさ。ウラシベツ村の長者はすごい人間だとか…



不用意な言葉で仲間のクマ神をおどしてしまい、なぞ解きをすめていく

「金」の声でユカラを語り、ほかの力エルが銀の力で金の手を入れる。とても見事で思わす聞き入ったが、語り手を見つめようと思つても、どうしても見つけれなかったというのです。すると、ほかのクマ神たちも口々に「そうだ！ 自分もそうだった！」と言ひ、そして「人間の中にも不思議な力を持つた者がいるものだ」としきりに感心しています。私は、酒が入つていたこともあつて、つい言つてしまいました。「しよせんは人間のすることだろう。神ともあろうものか、それを見破れないとは情けないんじゃないか」すると仲間のクマ神たちはこう言ひはじめました。「それでは、ぜひウラシベツ村に行つて、この不思議な解き明かしてください。見事解ければこれまで通り、あなたを尊敬しましょう。もし解けなければ、クマ神の中でも一番下つぱの神になつても構いませんよ」私は、自分では人間の世界に行つたことがありませんでしたが、こうなつては行くしかありません。クマの姿になつてウラシベツ村の長者の前に行き、長者の矢を受けました。長者の家に着くと、私を祭るための儀式が始まりました。人間たちが大勢集まり、おいのりやおどりを始めました。

聞いた通りの不思議な体験。火の神のおかげでピンチを切りぬけた



動物は食べ物くれる神様

このお話は白老町に暮らしたアイヌの男性が書き残したものです。話の中では、クマたちは人間にしろめられた後も、あれこれ考えたりの仲間と話をしたりする様子が見えがれています。

アイヌ民族の考え方では、体が死んだ後も、たましいは消えずに残ります。体はたましいが一時宿るもので、だから人間に与えることもできます。体からはなれたたましいは、目には見えませんが、ずっと残っています。イナウやちそうなど人間からのお札を持つて神の世界に帰ります。

このように、動物などのたましいを元の世界へ送り出すおいのりをイヨマンテ（霊送り）と言います。動物を神様にささげるのいけにえにするのではなく、動物が神様なのです。「神様を食べていいのですか」と質問されることもあります。クマが、食べ物を与えるから神様なのだ、ともいえるでしょう。



テタロクヤン

宇南山嘉宣さん(45)＝清掃会社経営

—お住まいとお仕事を教えてください。

日高管内平取町で清掃の仕事をしています。トイレから流れた水は、浄化槽という所に行き、そこで微生物が水をきれいにしてくれます。平取町では各家庭に浄化槽があり、私の仕事は水質を検査して、浄化槽がきちんと働いているかどうかを確認したり、細かな手入れをしたりすることです。2年前に会社をつくり、家族で仕事をしています。

もともと私の家は清掃やお葬式、生花店を営んでいました。私は高校を卒業した後、仕事を覚えるために札幌市内の生花店で働き、それから苫小牧市や旭川市で葬儀会社、運送会社などに勤めました。いろいろな場所や人を知っていた方が、後々良いと考えたので。

—アイヌ民族のことを意識されたきっかけは。

同じ町内に二風谷という所があり、親戚も暮らしているのが子供たちからよく遊びに行っていました。当時は今よりも木ぼりの仕事

んで、よく目にしていました。それ以上のことは知りませんでした。祖父はウタリ協会（今のアイヌ協会）の役職についていましたが、私がアイヌ協会に入ってから、いろいろなことを知ることになったのは30歳をすぎからです。地元に戻ったところに参加し、今は平取アイヌ協会の副会長をしています。

—地元でイベントを主催しているそうですね。

毎年6月にウレクレクという音楽祭を開いています。若い人も集まるイベントをめざして、アイヌのアーティストや和人の高校生バンドにも出演してもらっています。近くに国立少年自然の家があるので、そこに来ている子供たちにも見に来てもらうなど、交流を広げる工夫をしています。

子供のうちからアイヌのことをよく知っておけば、差別をする心も起きなくなるでしょう。平取の中で、アイヌについて語ることが「普通のこと」になっていくのを目指しています。

タンベエヒラムヤン?

「きみ、これ知ってる?」の意味

■メトトウシカムイ

クマやキツネ、カラスなど動物はたくさんいて、それぞれが神様ですから、とてもたくさん神様がいます。ことになりま。カラスにはカラスの、キツネにはキツネのリーダーがいて、仲間たちをまとめています。サケのむれや、草木にもリーダーがいます。

クマのリーダーはメトトウシカムイ（山おくりの神）などと呼ばれ、とても